

# これが 三次（みよし）の往来本



## 公開講座 養育往来に学ぶ江戸の子育て

- ★往来本（往来物）とは、寺子屋などで使われていた昔の教科書の総称です。
- ★「養育往来」には、江戸時代の子育て論が凝縮されています。＊裏面参照
- ★「養育往来」から、現代にも通じる江戸時代の人づくりの知恵を学びましょう。



「往来本」とは 一般には「往来物」と呼ばれ平安後期から明治初期にかけて寺子屋等で用いられた教科書の総称です。三次市立図書館が所蔵する「往来本」は大阪在住の古書収集家の黒崎貞枝氏が大正末期頃より収集したものに由来します。そのコレクションは彼の没後、甥の平井右平氏の手になり、後に三次に図書館が設置されるきっかけとなりました。

三次市立図書館が所蔵する「往来本」の特徴は●江戸時代以前の古往来を始め、稀覯本が数多い●関西以西の地域を対象とした稀覯本が多く、出版も関西の物が多い●関西以西の公共図書館において所蔵数が一番多い●往来物の全分野に及んでいるところです。三次市立図書館では図書館所蔵の「往来本」312点の中から、貴重な196点を2018年1月5日からデジタルアーカイブ化し、公開しました。9月から～ネットで学ぶ往来本～「おとなの寺小屋」を2018年度中7回開催しました。講師は「デジタルアーカイブ」公開時からお世話して頂いた往来物研究家の第一人者、小泉吉永様です。2019年3月16日～養育往来に学ぶ江戸の子育て～と題し公開講座「おとなの寺小屋」を三次市民ホールきりりで開催しました。講師は勿論小泉吉永様です。2019年度も引き続き「おとなの寺小屋」を開催します。是非ご参加下さい。

詳細は「三次市立図書館」 <http://tosho.city.miyoshi.hiroshima.jp/> にて紹介しています。